

村山市消防団広報誌

創刊号
H15.11 発行



発刊によせて



村山市消防団
団長

柴田多津雄

自治体消防五十五周年の節目に合わせ、はじめて村山市消防団の広報誌を発刊いたしました。

消防団員は、本業を持ちながら災害時には昼夜を問わず、地域住民の生命、身体、財産を災害から守るため組織された、特別職の地方公務員です。

村山市では消防団の活性化を図り、地域に合った機構改革を行ない、信頼される消防団を目指し防災活動を続けています。

今年の入団者は五十六名おり十代から四十代までと幅広く、訓練や災害現場で即戦力として立派に働いております。さらには消防団の心意気を徳内ばやしにのせ「村山まとい連」として積極的に加わり、祭りを盛りあげ誠に心強いかがりです。

今後も団員一同「消防団は、やりがいのあるボランティア活動」を旗印に一層頑張る所存です。消防団に対し理解のある方は、男女を問わずお待ちしております。

消防団の活躍の様子

全幹部研修・辞令交付式



新年度を迎え最初に行われるのが、全幹部研修及び辞令交付式である。一分団から八分団までの全幹部と消防職員が集まった中で、市長、団長より訓示がなされ、幹部として最も緊張する式である。特に新任幹部に於いては、その日夕方まで行われる実技訓練を通してこれまでの指示を受ける側から、指示を出す事の大切さ、難しさを体で感じる日でもある。

同日の新入団員についてもまさに、消防団の第一歩になる辞令が交付され、団員としての心構えの元に、基本的な実技訓練が行われる。この様にして、消防団の一年が始まるのである。

第六分団長 青柳長一郎

年度始めの消防団活動は、全幹部研修及び新入団員辞令交付式・一日訓練から始まる。前年の年明けから、幹部の皆さんには新入団員の確保に、頭を悩ませながら、年度始めに臨むのである。

実際部活には、年々若者が減少している中で、職業の多様化に伴い、なかなか厳しい現状であるのは確かである。

そんな中で、今年度は「最上川イベント広場」で、四月六日に実施された。

一日も早く、地域住民の期待に応えられるように、団員同士の間関係を重視しながら、消防活動を行って欲しいものである。

第八分団長 森 修一

新入団員一日訓練



春の防災訓練



山形盆地断層帯の大地震を想定して、十五種目の訓練を実施、自主防災会の初期消火訓練、婦人消防クラブの放水訓練、楯岡中学校生徒の避難訓練等澆刺とした訓練でありました。消防団による火災防ぎよ訓練は水利が悪いため、遠距離中継訓練、防災センターから物資搬送訓練が実施されました。

特に、本部運用訓練の伝令による情報収集が重要と思いをいれました。皆さんから「訓練をやった良かった、地域に帰ってさらに点検を」と意欲に満ちた言葉に、我々消防団も「日々精進」と感じました。

第一分団長 伊藤 眞一

消防大演習



山の緑も色濃くなり、桜の花も満開で、天候にも恵まれた今日この日に、平成十五年度村山市消防大演習を、市長はじめ多くのご来賓を迎えて挙行されました。

観閲で始まり、各種訓練、点検を披露してくれました。消防団員はもとより地域の自主防災会、婦人消防クラブとも、きびきびした各種訓練大変ご苦労様でした。

私達幹部も、勉強になった一面もあり、これからは今まで以上に、消防団員にも指導しなければならぬと思います。最後にこの訓練を見て、市民の皆さんも安心出来たのではないのでしょうか。

第三分団長 鈴木 慶美

今回の訓練は数年ぶりに行なわれ、初めて参加の幹部も多数であったと思われます。

消防団の責務は、災害を警戒、防ぎよし、これに因る被害を軽減して公共の安全を保持することにあります。特に、水防活動は人海戦術的要素が多分にあり、幹部の確かな判断と多くの団員、地区民の協力が必要となります。

近年、山地や田畑の荒廃、地区の都市化により、水が短時間で多量に発生します。常に降雨時や雪解け時には、十分な注意をはらい、すぐにでも対応出来る体制を整備しておく必要があります。

第七分団長 八鍬 茂敏

水 防 訓 練



ま と い 連



徳内まつり共演には、各分団並びに各方面から多大なご支援ご協力を頂き、誠に有難うございます。三年目出演も無事終了し、まずはひと安心している所です。

思えば一回目の時が一番大変で何をどうすれば良いのか、混乱の連続でした。各分団から集まって頂いた実行委員の方々、また女性陣の方々に感謝いたします。

出足の遅れがあるせいか、既に各地域で活躍中の団員が多いようです。今後のまとい連は多くの団員に加入して頂き、又各分団のお力添えを賜り、まとい連の一致団結を図っていききたいと思えます。

第五分団長 小林加次重

平成十五年度の消防操法審査会が、九月七日に最上川イベント広場で早朝から実施されました。

水出し操法という一段と実戦型の内容になり、各出場隊は長期的な練習日程で、早朝や夜間に練習を計画したり、部員が厳しくサポートする等の工夫した訓練を行なった様でした。また署員の方々の熱心な指導もあり、出場した全隊が操法審査合格のバッヂをもらう事が出来ました。特に新入団員は、消防団員としての自覚を確立できたと思えます。午後からの北村山支部大会に出場された操作員の健闘をたたえます。

第二分団長 西塚 茂男

消 防 操 法 大 会



消 防 出 初 式



数ある消防団の行事の中で、初めに行われるのが出初式、毎年一月の第一日曜に、幹部団員と自動車ポンプの団員が参加して行なわれている。数年前までは楯岡の広場で行なわれていたが、色々な事情で現在は市役所前広場で、観閲、分列行進、一斉放水、そして消防署員による防火太鼓等々、約一時間ぐらいの式典で終了する。

たかが一時間でも、年の初めに一年間の無災害を願い、そして消防団の士気の高揚と、消防団員の団結を願う行なう出初式は、消防団にとって欠くことのできない行事の一つだと思っている。

第四分団長 軽部 進一

あなたの力を、郷土のために発揮してみませんか

消防団員募集!!

村山市消防団では、郷土を守る心意気にあふれた、平成16年度の新入団員を募集しています。消防団員は、自分の仕事を持ちながら必要に応じ召集されて消防団活動を行います。入団すると、法被など消防活動装備が貸与されます。また、万が一ケガをした時は、程度に応じた補償がされます。

新入団員からのひとこと

操法大会に出場して



新一 今回初めて操法大会に出場し、市大会で一位、北村山郡大会で

二位の成績を収めることができました。何もかもが初めての事ばかりで、操法の練習のときには、署員の方々、地区の団員の方々には、一挙一動丁寧に指導していただき本当に有難うございました。大会当日は無我夢中でしたが、練習の成果を結果として残す事ができました。

初の火災出動



光憲 物凄いサイレンの音とほぼ同時に、たまたま一緒にいた父が

「ハッピー着る行くぞ、車に乗れ」そう言われ、ポンプ車庫に向かい到着する頃には、手に汗を握るほど緊張していました。入団して間もなく、ましてや火事そのものに遭遇した事もない自分に何ができるのか、正直言って恐ろしかったです。消防団という重大さに改めて気づかされました。

燃えた「まとい連」



徳幸 村山徳内祭りに向けて約二ヶ月間の練習では、祭り好きという

共通の趣味を持つ仲間とすぐ打ち解け、忙しいながらも充実した毎日でした。祭り当日は、暑さプラス熱気で大変盛り上がり、お囃子、掛け声、踊り手の気持ちが一つになれた時は、最高の気分です。また来年が楽しみです。

新入団員一日訓練



幸吉 普段見ることのできないきびきびとした動きに驚いた。指導

者の号令で隊全体が一齐に動く様は、感動さえ覚えた。教員という職業柄、子供たちに是非見せたいと思った。新入団員として緊張しながらも訓練を受け、命令指揮系統の重要さと即座に対応できる訓練の大切さを実感した。今後とも厳しくも温かいご指導をよろしく願います。

女性消防団の紹介

編集委員

- 委員長 第一副分団長 高橋 賢一
- 副委員長 第二副分団長 太田 幸信
- 委員 第三副分団長 板垣 哲雄
- 第四副分団長 松田 誠司
- 第五副分団長 佐藤 春夫
- 第六副分団長 菅原 謙司
- 第七副分団長 永岡 達男
- 第八副分団長 大田 一重

広報誌に対するご意見・ご感想を編集委員までお寄せ下さい。



団員 柴崎 一枝



団員 白塔 直子



団員 鈴木 智子



班長 斎藤 敬子

私達と一緒に活動してみませんか。大歓迎いたします。